

ろうと思うわけですか。

—— パルプとしては、松から雑へ移行して最近では雑木も割にだんだん減ってきたのではないですか。

宮本 そうですね、やはり資源的な問題から追求するわけでございますから、松が多い時には松が入りますし、これがだんだん枯渇していくようになりますと、今のところ雑が多いので雑をやることになりまして。クラフト、CGP、SCPとかいった新しい方法がその間にできまして雑をやつとこなせるような段階にきたようなわけですか。

又これは資源的にみまして、ちゃ雑がなくなつたら、どうするかということになりますと又その次の次元の比較的であるところの次の需給、例えていえば犬童さんのおっしゃった杉資源あたりに：しかもそれが材質的にはやはりなんといつてもふえる分だけが完全な素材の状態ではなくて建築材とかハイ材とかそういう、或は又外材のラワンあたりからのハイ材からチップをとるといった性質のものに活路を見出していくといったことに入っていくのではなからうかといった感を持つていくわけですが……

—— そうすると将来はもしかすると杉もパルプ材にチップその他の形で相当使われるというふうに一応推測してよろしいものですか。

### パルプ材からみた原木価格は

は松喰虫ということ、最近では敬遠されつつあるという傾向が……  
犬童 そういふことがいえますね。それから、だんだん最近では小径木が歓迎された状態ですが、そこで県の方でもそうだったと思うんですけど、盛んに短伐期植林が奨められているわけですね。

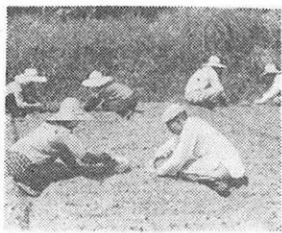
今の病害虫に対する抵抗力の強い樹種を選んだ方が得策だといった観点から、ここ数年は楡の造林が、急速に伸びているのではないかと考えています。

球磨の方でもかつては、杉六、楡四の割合でしたが、ところが今では逆転して杉四、楡六で造林しているのではないかと、楡が病害虫などに対して抵抗力が強いということ、小径木が割に高く売れるという時代だもんですから杉のように長大

### 協業化でハッスルする

#### 晩田林研グループ

ばんだ (天草郡有明町)



グループの共同作業風景

島田秋夫さんを会長として三組の夫婦からなる「オンドリグループ」で、三十七年に発足。家が隣り合わせだという利点もあって、それまでは互いに労力提供や共同作業を行ってきたが、一つの事業目的をもって、林業経営を進めるためにはお互いの知恵と力が必要だと、林業改良指導員の助言を得て協業化に踏み切った。第一年に組合から委託されてモリシマを二万本育苗。翌年はモリシマの他に楡も試作。そして今年にはモリシマ五万本、楡二万本と取り組んでいる。グループは夫婦出役が原則で、種子採取やしいたけ栽培も併営。目下のところ好調で、利益配当も平等とし、別にグループの積立預金を設け、三夫婦仲よく菊池や県外の林業視察に出かけるなど和気あいあいたるグループではある。(K)



## 筍にみつけた活路

上益城郡 矢部町



筍の共同加工作業

米以外の収入といえば、せいぜい牛の子ぐら。経済力の弱い、典型的な山間農村であった。何とかしなければと、考えていた時持ち上ったのが、林業指導員のアドバイスによる筍だった。まず成功している先進地のデーターが示された。立地条件を検討してみる。旧中島村だけで二百餘の竹林がある。県下でも決して小さな規模ではない。これはいけるぞという見通しをつけて、八十九名、五十八戸の竹林園地化をめざし、島木たけのこ生産集荷組合を結成したが、昭和三十八年九月であった。

適正本数の優良母竹を残して間伐する。下刈りおよび中耕、そして施肥。最初の年は二十餘を園地化する目標で、農

てさらすかということも若干残っているが、やはり杉は成長がいいし、杉の人工造林が今後の収穫には非常に大きなウエイトをもつてくるというのを考えますと、現在のところ差当り杉の素性とか成育とか、経済性とかでだんだん効率というものは高まって行くと思います。

—— パルプ材からみて、今木材の価格はこんなものですか。  
宮本 まあ理論的に申し上げますと松の方が割に高いということです。というのは、余り大きい価格になりますと、必然的に輸入パルプという問題が出てまいります

という結論……未口いっばいをすりあげるのをバタ角といつて歩止り一〇〇%でございます。歩止り率が高く、価格面もよく加工費が安くつきます。それで結局大径材は心サリ材になりますので強度でも弱いということ、どうしても心モチ材がよく、昨年の暮頃までは非常に出ていたわけで、それで小径木がよろこばれたわけです。

魚住 今のような人手の足りない時に山に木を植えるということは、終戦直後は木材が急激に上ってきたので、山に対する熱がついたわけですね。最近では人手が足りなくて、労賃は高くなるということ、木を植えるということは若い人には特に関心がないようですからこうなると治山の関係でも大変なことになりわしないかと思うんです。

いわば悪い意味でいうなら広葉樹については掠奪林業であり、針葉樹についても親爺が植えたやつを伴が掠奪するようなことで、掠奪林業に変わりはないと思うんです。

一方では山麓地帯を果樹方面に仕向けていくことになる大災害をきたすのではないかと心配するわけです。そういう意味で、少し飛躍したい方かも知れませんが、私はどうしても未開墾、開墾放てき地とあわせて、孟宗竹の竹林面積をふやしていった方が、同じ掠奪するにしましても竹林ですすから一人であつてゆきますからこれは広葉樹林より、むしろ竹

開期をねらって協同作業が進められた。ともかく、この最初の開墾以上に苦しい仕事だった。当初、一畝当り延五十人と考えていたが、実際はその倍近い手間を要することがわかった。

収穫の時期になって、まず組合員自身に驚いた。たまたま表年に当たったせいもあるが、「出過ぎて困る」と悲鳴をあげる始末。しかも、昨年までの黒ずんだ筍は、ピンク色の良質のものとなつていた。裏年だった昨年と、表年の今年との修正を行なった結果からでも、十畝当り、開墾地三百七十kg、未墾地百五十kgとなり約二・五倍の増収が確認された。

やればできるという自信をえた組合の今後のねらいは、もちろん、全部の完全な園地化と、収量を十畝当り千二百kgまでのばすこと、そして、処理能力一日四トンという弱い農協加工場を強化したいということである。(W)

現在のところではやはりこういつた状態ですと、国内産の松を主体にしてつくったパルプに比べると割りに輸入パルプが入りこむ余地が価格的にあるように思います。

—— そういつたことで、国内の原木価格という特にパルプの面から申し上げまして原木の価格というものは、これからはどうして考えられなければならないかという点で、国際的な一つのカラミあわせにきてる安定した価格でなければならぬと思います。

### 企業として有望な竹材

—— 今、竹材の話が出ましたけれど菅野さん竹材、或は竹材加工の面からごらんになりまして竹をどんなふうに見たらよいものでしょうか……

菅野 今、魚住さんがその機を得たりとお話ができてこれに調子を合わせるわけではありませんが……(笑)  
さきほどからお話きいてますと自由貿易になつて外材が日本に入ってくる、そうすると楡、杉の今後どうしたらよいかというところまで考えられていますか、

### 成長株として注目されるしいたけ

